

2017年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	性別って2つだけ？ ～知らないでは済まされないLGBT～	
団体名	一般社団法人 ELLY	
日時・期間	2017年4月から2018年3月まで	
場 所	大阪府、三重県の有志メンバー	
規模・人数	15名	
解決したい課題	LGBT について学ぶことができる冊子を作成し、LGBT への認知を進め当事者の子ども達が安心して過ごせる環境(学校)を増やす。クラスに一人は存在するといわれる当事者の子ども達は、教員の知識不足により傷つくケースが多くあり、子ども達を取り巻く環境に置いて、教員の正しい知識不足による影響は非常に大きい。	
実施内容	LGBT について学ぶことができる冊子を作成する為に、有志により集まった当事者と教員での意見交換会を実施。事前に冊子の骨組みとなる内容を作成し、参加者へ下書きを読んでもらいました。その後、表現に不適切なものはないか、載せたい知識はあるのか、意見を出して行きました。 意見交換会が終了後、参加者の意見をまとめ下書きを加筆修正。さらに当日参加出来なかった教員にも下書きを見てもらい、意見を追加しました。冊子のデザインについても意見を募り、気軽に手に取れるものを意識しました。 また冊子だけでなく啓発グッズとして、LGBT について学んだ小学生が書いたポスターを使い、オリジナルファイルとカレンダーを作成しました。	
成果と課題	<p><u>成果</u></p> <p>「先生のためのLGBT入門ブック」を作成し、講演を聞いた学校の教員に購入して貰ったり、教育関係者の手に届けることが出来ました。皆さんの感想も分かりやすく参考になると好評でした。</p> <p><u>課題</u></p> <p>作成した冊子をより多くの教員へ届けることが課題です。単純に配布することは簡単ですが、それでは当初に掲げた持続可能な活動の仕組みづくりにはならない為、積極的に冊子の宣伝をしていきたいです。</p>	
今後の目標	作成した冊子を学校へ届けて終了ではなく、冊子の内容に工夫を重ねよりよい物にし、教員への啓発を進めていきたいです。そして、学校という社会が子ども達にとって過ごしやすい環境になるように活動を継続して行きたいと思えます。	

2017年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	ひきこもりの若者がつなく“地域の絆ホットランチ” 配食事業
団体名	特定非営利活動法人南大阪サポートネット



日時・期間	2017年9月25日～2018年2月19日
場 所	To-Villa (大阪狭山市半田6丁目1179)
規模・人数	延べ参加者 若者36人、ボランティア94人

解決したい課題	<p>ひきこもりを中心とする社会問題に対し、いくつかの自立支援がされているが、そのほとんどは一足飛びに一般企業への就労支援である。ひきこもりからの脱出チャレンジ期に、やっとの思いで社会に出ようとしても非常にハードルが高く、そこでつまずくと再び完全ひきこもりに戻るケースが多く見受けられる。</p> <p>この時期に重要となるのは、支援者のあたたかい関わりの中で、自分の行為が誰かのためになり、地域のためになっているという実感、すなわち自己有用感とともに“自分でも大丈夫”という自己肯定感が持てる機会であるが実際には皆無である。そこで人と関わることの喜びを感じることができるよう小さな成功体験を積み重ねる機会と場所を提供することが必須となる。</p>
実施内容	<p>若者がお弁当を作ってお届けするまでの一連作業をボランティアと一緒に行うことで</p> <ul style="list-style-type: none"> • あたたかい関わりの中で社会経験を積む「機会」と「場所」の提供をした。 • のびのび失敗できて小さな成功体験を積み、自己肯定感を育む機会を作った。 • 人と地域のためになっている実感を持ち、自己有用感を持てるような機会を作った。 • 経済的負担なく目的を持って外出する機会の提供となった。
成果と課題	<p>成果としては、継続して活用しようとする若者が出てきたこと、更に実際のアルバイトに行き始めた若者がいたことや、お弁当作りを続けていることでやっと出てこれるタイミングと合致した若者がいたことなどがあげられる。また若者たちが自分で選択をして参加してくれるようになったことなどの変化を間近で感じたことは嬉しかった。</p> <p>課題としては若者・当事者家族に届くような広報、告知、広域連携の必要性、当事者のリズム作りとして、月に一度の実施では少ないなどがある。具体的なこととしては高齢者サロンへの配食は、新しい物への抵抗感が強かったように感じ、お弁当の内容も合わせてハードルが高かった。</p> <p>今後の継続としては居場所の光熱費を含む維持経費の捻出とスタッフ、ボランティアの確保と有償化への移行が課題となる。</p>

今後の目標	最優先で考えていくべきことは若者たちが経験を積める機会や場所の継続である。ひきこもりの問題はご近所や地域には知られたくないという気持ちがあることも多く、広域での連携をとる必要性がある。また支援機関にとどまらず、理解のある体験場所を探し、繋がりも作ることが並行して必要と考える。
-------	--

お問い合わせ先：NPO 法人南大阪サポートネット HP:<http://npo-supnet.jimdo.com/>

TEL&FAX 072-367-8331

2017年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	「ようこそ矢田へ～外国にルーツを持つ子どもと保護者への支援～」	
団体名	特定非営利活動法人 共生と自立のまちづくり・ふれあい	
日時・期間	2017年4月～2018年3月	
場 所	ゆうあいセンター会議室、矢田小中一貫校会議室 矢田7校校区	
規模・人数	会議・打合せ等 10～20名、交流会約80名×2回等	
解決したい課題	<p>矢田同推協の資料から、矢田7校には現在100名超の外国にルーツを持つ児童・生徒が在学し、子どももその保護者も生活の様々な局面で、「生き辛さ」を感じていると思われる場面にしばしば遭遇。当NPO会員も「日本語力不足で絵本選択出来ぬ」場面等を目撃。実態把握と解決の糸口づくりをしたい。</p> <p>第1段階として、1、当事者同士のつながり作り、2、相談窓口の開設、3、「多文化共生フェスティバル」の開催等々経験豊かな関係諸団体の知恵も借りつつ、コミュニティ構築の諸機会作りを具体化していきたい。</p>	
実施内容	<p>4～6月に、関係団体と打合せ会合を数度開き、矢田7校の新年度の家庭訪問の際、外国ルーツ世帯の「日本語コミュニケーション力の濃淡、どんな集まり期待？」等、実態把握アンケートの実施、出来ることの具体化等を協議。</p> <p>① 2017年7月8日学校の図書室、校庭、調理室をお借りして教職員・保護者の皆さんの全面的な協力援助の下、延べ百数十名の七夕短冊・折り紙作り、保護者による料理作り食事大交流会を持つことが出来ました。この集まりを「ワールド交流をつなげようの会」と命名し、今後も継続していくことを参加者一同で確認しました。</p> <p>② 2017年12月7日「みんなのおすすめ料理」のお絵描き会。</p> <p>③ 2018年2月20日「水餃子とタッパイ[タイ風焼きそば]」作り等。</p> <p>多数の子ども・保護者が参加。グラウンドで遊んだあと、調理室で「水餃子とタッパイ(タイの焼きそば)」。水餃子はプロが皮を作り、子どもたちが包み役。来日したばかりの中国語オンリーの小3年とお母さんも参加。</p>	
成果と課題	<p>子どもは子どもと、お母さんはお母さんと、他校の参加者とおしゃべり。おいしかった、楽しかった、新しいつながりが生まれました。短い時間、少ない回数ではありましたが、多くの参加者が母語で個別に語り合ったり、メルアド・TEL番号の交換等もあり、参加された方々の笑顔を見て、「孤立感」解消の第一歩にはなっているんだなあ、これからもずっと続けていきたいと思いました。しかし、在学途中で転居・帰国等で、会えなくなる方も少なからずおり、日本語力、食生活の違い等は当然ながら、入管行政・就労・居住の困難等、色んな角度から検討すべき課題があることも、僅かながら垣間見えて来ました。</p>	

今後の目標	打合せ会議の中では、戦後の大阪や矢田に於ける民族教育の歴史、個々の教職員の培ってきた経験をもっと活かすことの大切さ等の意見も出されていましたが、未だ手付かずのまま、未来に活かすべく、蓄積された『経験』を活用する手立て[例えば、かつての文集の掘り返し等]も考えていきたいと思えます。
-------	--

お問い合わせ先：NPO 共生と自立のまちづくり・ふれあい TEL：06-6605-5177

2017年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	小中学校での今日的な部落問題を伝える教材づくり事業	
団体名	西成教育サポート6校連絡会	
日時・期間	2017年4月から2018年2月まで	
場所	にしなり隣保館	
規模・人数	全6回 149人が参加	
解決したい課題	<p>①2002年に特別措置法が終了して以降、大阪市の小中学校で部落問題を教える機会が減少しており、部落問題を十分に学ぶことができていない。</p> <p>②若い教員が大学で部落問題を学ぶ機会が減ったため、部落問題の認識が低くなり、こどもに部落問題を教えることが難しい。</p>	
実施内容	<p>①学習会や部落問題についての意見交換を小中学校の同和教育主担と地域で概ね月2回実施した。</p> <p>②部落問題について、地域から3回（地域で活動している者、地域の若者、地域外から地域で活動している者）、学校から3回（地域の小学校教師、地域の中学校教師、かつて地域で活動していた中学校校長）の学習会を実施した。</p> <p>③こどもたちに部落問題を教える小中学校の教師に対して、身近な地域の様々な立場の者が部落問題について語る冊子を500部作成・配布。</p>	
成果と課題	<p>成果は、①様々な立場で講演した講師の部落問題の考え方を理解できた。②学習会の実施や会議で、今後こどもに部落問題をどう伝えていくのかを議論する土壌ができた（来年度以降も継続してほしい、校長も巻き込んで議論してほしいなど前向きな意見が多数あった）。③部落問題について地域で議論した成果物を残すことができた。</p> <p>課題は、①部落問題に絞った講演は、参加者には有効であったが、当事者でない講師には、少し荷が重いと感ずることもあった。②学習会の日程がずれ込み、冊子作成に十分時間が取れなかった。</p>	
今後の目標	<p>①学校でこどもに部落問題をどう伝えるのか地域も積極的に関わり学校とともに考える。</p> <p>②地域としても、学校とは別にこどもに部落問題を伝える取り組みを行う。</p> <p>③活動を更に発展させる（地域外へ広げる、部落を負ではなく誇りが持てるように）</p>	

お問い合わせ先：にしなり隣保館 06-6561-8801